



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

『伐りましよう、出しましよう』

通年コース第九・十回報告「伐出」

樹を伐つて、枝を払い造材し、集めて林から搬出する。この一連の作業を「伐出」と言います。

最近の林業現場では、伐る・枝を払う・造材する・集める・積載するという作業を機械力でできる大型の高性能林業機械が活躍を始めていますが、これら大型林業機械は、林道が整備されていないと運び込めないし、急傾斜の

林内ではその機能も十分発揮できない、まして間伐林地となると残した樹を傷つけるわけにはいかないので一段と伐出が困難になってしまふ。そこで森林塾では、比較的小型的林業機械と木を寄せ集めるウインチを使って伐出を体験して頂きました。

車体にウインチを二基装備し、まるで金魚のようにお尻を振りながら林内を走るロギングトラクタ。ウインチ一基と積載デッキを装備し、集める・積む・運ぶができるキャタトラ。持ち運び可能な、いつでもどこでも簡単集材ひっぱりだこ。これらの機械とチェーンソー、そして保残木マーク法のノウハウを合わせたら・・・。



お尻をふりふり丸太へGO



搬出現場会議・キャタトラ編



久しぶりの伐倒なので・・・



現場講義は聞き逃さない

今回の内容 通年コース 第九・十回 伐出

8月23日・24日

一日目 8月23日(金)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ。日程説明・班分けの後、さっそく現場へ。

9時 現場着。伐倒班・ひっぱりだこ班・キャタトラ班・ロギング班の四班に分かれてそれぞれの作業を行う。伐倒とひっぱりだこの現場は、前回間伐したますみ区有林。キャタとロギングの現場は、専門コースの伐採現場の伊那市有林。

12時 現場にて昼食

13時 伐出再開。各班次の作業へ。

15時45分 作業終了。小屋へ。

二日目 8月24日(土)

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ。日程説明。昨夜の雨はあがったものの、蒸し暑い曇天に、晴れてくれと祈りつつ現場へ。

9時 現場着。昨日に引き続き四班構成で伐出作業開始。

12時 現場にて昼食。島崎先生の「まきわりくん」による新材作成実演。

13時 伐出再開。各班次の作業へ。四種類の作業を半日づつ体験して頂きました。伐るから出すの一連の工程を理解して頂けたでしょうか。

15時45分 作業終了。小屋へ。



もう造材はお手のもの？

16時 終了、解散。お疲れ様でした。

参加者／江尻さん、尾形さん、長部さん、梶原さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小泉さん、斎藤さん、佐藤さん、館野さん、坪内さん、長谷川さん、洲上さん、松田さん、宮沢さん、山下さん、山田さん、和辻さん、長坂さん

講師／保科先生、島崎先生
スタッフ／石原、川島、後藤、中村、野口、早川、坂野

次回以降の予定

第十一回「見学」

9月7日(土)

午前中は、森林組合連合会の伊那木材センターの市場見学と模擬入札を、午後は、有賀建具店さんの見学を予定しています。伐り出された材の流通の一端と、板となつて利用される場面の一端を実際に見て頂くこととなります。

第十二回「枝打ち」

9月21日(土)

間伐とともに能動的な育林作業の「枝打ち」を実践して頂きます。

保科先生の枝打ちの妙技は必見もの。また、先生愛用の「両刃の鉋」や「あぶみ」といった玄人の道具類もお見逃しなく。



こんなこともできますです



おっと危ない！！

▲情報コーナー▼
浜田久美子さん最新著作『森がくれる心とからだ』が発売されました。
森や樹木との出会いやふれあいは私たちが思っているよりもっと深いところから心とからだの健康に関わっているのではないかなんとなく疲れている自分を知り、木との出会いで楽しむ気持ちや生きる気力を取り戻した女性。森で感情を爆発させながらたくましく遊ぶ子供たちが集う森の幼稚園。難病治療の合間に出かけた森で



ガンバレ、がんばれ、チルホールマン

知った心のやすらぎ。など、森に癒され森と出会うことで生きるちからとよろこびを見つけた人々の声を通して、心とからだそして生きる力を森がどのようになれるのか紹介されています。
定価千六百円＋税ですが、冊数がまとまるといくらがお安くなるそうです。申込は森林塾事務局まで。×切りは9月20日。





わたしは、緑化推進環境改善協会という非営利団体を仲間十四人と運営しています。非常に長く覚えづらい名前なので、英訳した名称の「インシャル」とり「SDG」と皆さんには覚えて頂いていきます。

SDGは「木を伐り、森を



未来の資産に。」という理念のもとに、まず、木を植えています」という一般的な活動ではなく、まず、木を伐つていきます。つまりは、山の手入れ＝間伐という活動から「森林の再生」を考えていきます。

森と人の豊かな関係

今、あなたの身の回りで木を燃料、あるいは材料としたものがいくつあるでしょう。都市生活に限れば、食卓上にも木の素材はないかもしれません。伐採に適した成長した木を伐り、それを燃料や材料に使うことは二十一世紀でも人間の生活に欠かすことはできません。この利用を「自然破壊」や「濫伐」「乱用」と決めつけては、真つ当な人間生活の成り立ちをも否定することになります。

「自然を守れ」というスローガンは、エコ意識の高まりと相まって、とても口当たりの良い印象を受けます。しかし、一度実際に人工林に足を踏み入ると、そこには人間にさえも見放された殺伐とした光景が広がります。森林

の伐採さえストップすれば森林が救われるという状況は、世界規模では確かに見受けられません。しかし日本の森林に限っては、このまま放置しておくわけにはいきません。自然保護と経済を対立する概念としてとらえるのではなく、両立する概念として成立させるためにやらなければならぬこと。SDGは、森林が扱われる現状の最前線を見守りながら、森林も人間もともに豊かになれるメソッドを追求していきます。

木を伐ることからはじめる。適地適木を追求する。

経済システムの中で木を伐ることは、木を生かすことにつながります。木を生かすことは人間の役に立つということ、役に立てばさらに次の需要が生まれます。次の需要のためには植林が必要となり、そこでも人の手が大きにかかわってきます。単に「伐る」「植える」だけでなく、次世代の森林育成のために必要な視点と発想は「適地適木」。戦後のカラマツ植林の失敗を教訓に、標高や地形、土質などにフィットした樹種を選択するのはもちろん、複層林や針広混交林など、山に合わせ「モザイク状の森づくり」を押し進めなければなりません。それがひいては、森林の

中の湧水や湿地帯、沢、崖など多様な環境を生活基盤とする生物を保護することにつながり、農山村社会と生物の共生にもつながっていきます。二十一世紀をともし生きる人と自然。私たちから行動を始めましょう。

SDGは、二十一世紀における「持続可能な循環型社会」の構築を主たる活動目標とし、国内の森林の現状と、その果たす役割に注目しています。森林に由来する「バイオマス」は、エネルギー資源として世界的に見直されており、国土の三分の二が森林におおわれている日本には、森林バイオマス資源が豊富にあるといえます。

木を薪や炭などの燃料に変えて直接燃焼させて利用する以外に、チップやペレットに加工して燃やし、発電やコージェネレーションの熱源として利用したり、エタノールやメタノールという液体燃料にして自動車を動かすなど、さまざまなかたちに変えて利用すれば、たとえ石油が枯渇しても安心して暮らすことができます。さらに、森林を守りながら、農山村社会にはさまざまな木に関わる仕事が増え、雇用も生まれます。

SDGは、ライフサイクル全体にわたって木材が実現す

る省エネ、化石燃料代替型のエコマテリアル活用まで視野に入れて、新たなライフスタイルの創出と健全な経済化を目指します。

現場を知る事が第一歩

SDGの活動は今のところ机上の空論になってしまふ恐れがあります。SDGが今回のKOA森林塾に参加した理由もそこにあります。現場最前線で講習を受けることにより、今できること、できないことを判断することができ、また、現場の改善事項を体験から検討していくこともできます。体験が机上の空論を少ないものにし、現場との正しいコミュニケーションを円滑にすすめていく武器になります。

スタート位置にたつたばかりです。「山造り承ります」の仲間として認めてもらえるように一日でも多くの作業を一緒にさせて頂きたいと思っています。今後もし宜しくお願致します。



森林塾初回の自己紹介のときに、『野風草』のチラシをお配りしましたが、五年前に山梨県長坂町に来て以来、自然農と自然食料理と整体（野口整体）を主にした体験施設を営んでいます。

土と汗まみれの毎日ですが、生まれも育ちも東京のどまん中、中野区です。小学生の頃、西新宿に初の超高層ビルが建ち、その後雨後のタケノコのごとく林立するビル群を身近に眺めながら育ちました。ですから、今でも実家に帰るとき、あのビル群が見えてくると、悲しいかな、ああ帰ってきたと感じます。それが、山や川や海だったら、どんなに良かったかと思えます。

大学の頃から、もうひとつの生き方を探していたように思えます。実際、大卒後、

木工でもしながら自給自足をしようと、木曾の職業訓練校(木工科)で一年間学びました。その後、大工の手伝いなどもやっていましたが、適性の違いに気づき、再び自分探しの道に戻ってしまいました。

この際、外の世界を見て来ようと思いい立ち、特に目的もなく、海外の旅に出ました。各国、各地域、言葉や食べ物や着る物や宗教は違っても、結局みんなその土地に根ざして生きているという事を実感して、私もそうしたい暮らしや仕事をしようと思いい、一年近くで帰国しました。

その後、マクロビオテック(穀物菜食の料理)と出会い、同時にヨガ、整体、自然農なども学び、料理は仕事としてかかわってききました。そして、第一段階のまとめとして『野風草』をはじめました。現在、ほぼ自給自足の生活です。米、小麦、大麦、そば、



大豆、小豆、野菜、綿などを、二反の農地で作っています。梅干、ジャム、干し柿、漬物、味噌などの農産加工もしています。自然農の仲間も四十人近くに増え、お花見、お月見餅つき、竹炭焼きなどで楽しんでいきます。

さらに月のうち数日は東京と松本に全体の講座に通っています。誰にとっても一番近い自然は、自分の体です。その体、内なる自然を整えるのに整体を、外なる自然を学ぶのに自然農を実践してききました。

一人でのこういつた生活と仕事は、とても忙しくて、森林塾に通うのはかなりきついだろうと思いいましたが、日本においてはどうしてもはずせない、山や木や林業の事を、実践的に知りたいと思いいから申し込んだ次第です。新ストープを使っているの

「つる」を勘違いいたり、「かかり木」の処理で危ない目にあったり、今思うとかなり怖い事をしていました。日本には本来、自然に則した生活の技術や道具や知恵、ハードウェア

とソフトウェアの両面において、優れたものがあつたはずですが、それらを今一度見直し、学び、身に付け、次の世代に伝えていけるような仕事をしたいと思いいています。できれば、伐倒や集材など、機械類に頼らないやり方でできるのであれば、体験してみたいですが、先生、スタッフ、受講生の皆様いかがですか。チェンソーではなく、オノとノコで。

この十年は、長野と山梨とで、今後は暖かなところへの移住も検討中です。冬でも畑の凍結しないところ、南房総の鴨川とか、宮崎の綾町あたりが候補ですが、何か情報があつたら教えてください。また、一生かけて自分の家づくりもしたいですね。木と土と紙と石とわらの家。人にとつての「すみか」とは、どうあるべきなのでしょう。ちなみに、これまで一人でやってきました。ただいまパートナー募集(女性に限る)です。

森林塾では、島崎先生、保科先生はじめ、スタッフや受講生の方々も、皆さん個性豊かで、毎日楽しみます。仕事の関係でやむなく休む事もありますが、今後ともよろしくお願いい致します。機会があれば、自然農の命あふれる田畑へもお越しください。

コラム

私は、青森に行くため上野発青森行きの夜行列車に乗るため上野駅に降り立った。今時は東京発の東北新幹線で行くのが普通だが、上野からでない気分が出ないのだ。心の駅なのだ。自分は青森で生まれたわけではなく両親の実家が青森にあるのだけれども。

「ふるさとの 訛なつかし 停車場の 人ごみの中に そを 聴きにゆく」

これは石川啄木。あ、津軽弁だと気づいて振り向くと携帯電話で話している。啄木の時代にはこれは無いなあ、現代の上野駅をかみしめる。やはり上野からでない。子供の頃、お盆になって青森に行くのが楽しみだった。津軽平野のほぼ中央にある父の実家は農家でりんご畑と田んぼに囲まれていた。集まるといって大勢で古くて大きな家を走って遊んでいた。

田んぼではいりんな生き物を捕らえてはかわいがつた。仏壇の前には菓子箱が山となっていて、それを食い荒らした。和菓子より洋菓子が

人気だった。さらにろうそくと線香で火遊び。子供の頃から火をいじると魔法にかかったように夢中になったのだ。爺さんに怒られた。近所の小さい雑貨屋に行つて花火を買つたりくじを引いたり三十円のアイスを買つたり。大人にたにしをいっばいとてくるように言われるとうれしくて皆で沢山とつた。たにしは用水路や田んぼにころころいた。夕食時に食べた。うまかった。



この少年時代の夏休みは、寶石のように記憶に残つている。現在、田んぼはトマトのハウスになった。用水路も必要ないから無くなった。小型飛行機なら降りられるであろう広域農道も走っている。大勢いたいともそれぞれ子供を持ち、それぞれの家でお盆を過ごしている様子。小さな雑貨屋も我々が行かなくなったから(？)、閉店していった。どんなに田舎でも時の流れとともに変わる。今

回祖母に会いたくて行つたのだが大変活発で安心した。遠くで心配しているよりも行つた方がいい。嬉しかった。手前味噌(自宅で仕込む味噌)が復活していた。いいことも沢山ある。

さて、道中車窓から見るのは山の木ばかり。「間伐が必要だな」「杉が多い」「貯木場だ。どんな大きさの木が多

い？」など。母の実家は津軽半島にあり、そばを林鉄が走つてた。運んでいたのはひばである。話をきくと、ひばは育つまで何年もかかるので、あるだけ伐つてやめてしまったという。皆伐したんだな、と思つた。海が近いから影響もあつただろうなあ。シジミの産地だから。この山もひばだったという、指さす山を見ると、杉が育つていた。杉とて時間がかかる。冬の長さ厳しき、吹雪の強さ。どんな杉が育つのか。きつといい杉だろうと思つのはひいき頭で考えるからだろう。旅行中も森林塾生。

「カブ夫」

おわりに

まとまつた雨が降らない日が続いていて、秋蒔き野菜の種が蒔けない。けれど、朝晩の気温はだいぶ低くなつてきた。この分だと一雨降ると畑にきのこに大忙しになつてしまつてあろう、と思つ今日この頃です。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

